

ほとけの混和会だより

平成二十六年二月
東光院
仏の混和会
第102号

比叡山寒行の集い



宿坊の延暦寺会館にて



心洗われる、幻想的な浄土院

寒行の集いに参加して
古川正栄

湖西線 各駅ごとに春の色
比叡山 車窓に美しき雪の花
春なれや 寒山を隠し雨けぶる
寒行や 心洗はる 暁の雨
侘助と 寄り添ふ池や龍安寺

二月一日〜二日 天候に導かれながら、比叡山の寒行の集いに参加させて頂きました。
私達は、知らず知らずの内に、自己中心的な、わがままな自我の心を振りかざし、己を偽りながら、

己の行為の正当化のみを主張し、周囲に迷惑をかけながら生きております。

そして真の自己の心を見失ったまま、自ら迷いと苦しみを招き、迷走の日々を過ごしているのが現実です。

そこで、毎年この時期に、日頃の過ちを謙虚に懺悔し、偽りの無い真の自己を見つめる為に、比叡山の寒行の集いに参加させて頂いております。

本年度は、これから人生の荒波に立ち向かおうとしている二十二代の林君から、生きる為、会社の存続の為に、と様々な試練を経験された人生経験豊かな七十代の人まで、八名の人が参加して下さいました。

私達は「比叡山に修行に行くんだ。」などと、寒風染み渡る雪景色の比叡山を想像しながら意気込み東京八時四十分発の新幹線に乗車しました。

十二時、湖西線の大津京より比叡山の送迎バスに乗車し、十二時半、比叡山の延暦寺会館に着、しかし比叡山は雪の気配は全く無く、非常に暖かな日和で内心「良かった」と言う安堵感と「雪が無く残念だったね」などと強がりを見せながら、延暦寺会館にて精進料理の昼食を頂きました。

その後、比叡山の修行僧より日程説明があり、一日目は主に写経が中心で二日目は早朝の六時より根本中堂にて座禅、七時三十分朝食の後、山内の諸堂を参拝するとの事でした。

一日目は写経三昧、この写経とは、日頃世間の雑踏の中で過ごすストレス、又己の老いや病に対する不安、更に死という恐怖など、様々な不安や心配事、何もかも一時忘れて、全ての出来事を御仏におまかせします。と心に御仏を念じながら静かに一字一字お経の文字を写していくのです。

すると心に余裕が生まれ、リラックした安心感が抱かれてまいります。有る人が言っていました。「あー、すっきりした、心の中に水を打ったようだ」と、その人にとって写経は真夏の打ち水のような効果があったように思われます。

そして二日目は、早朝の座禅と朝食の後、山内の諸堂を参拝、天気が霧雨、とたんに沈んだ思いに成り「どうせ降るなら雪の方が寒行らしかったのに」などと、身勝手な思いを巡らし不満を抱いておりました。

しかし霧の立ちこめる山内は水墨画のような、幻想的な世界で、まさに聖地比叡山と言う名にふさわしい光景で心洗われ思いでした。



ともいきの輪

No.1

「縁」 私達の人生はこの出会いによって変貌して行きます。様々な出会いが、新たな出会いを招き、良い縁となるように、また共に他の幸を念じ、共に生きる環境となるよう、この紙面を通じて、ご縁を頂いた人々をご紹介してまいります。

今回は印西市内のビックホップで「ピースポイント」というバルンアートのお店を経営する西田眞子さんを訪ねて見ました。



バルンアーティストの西田さん(右) ピースポイント(0476-85-7737)

西田さんとの縁は、私が二十数年前陶芸をしている頃の出会ったのですが、現在は従業員二人と計三人で、バルンアートのお店を経営しておられました。この度、「ともいきの輪」と言うタイトルを設定し、先ず西田さん

んに取材を依頼してみました。

すると快く承諾してくださり、美人の従業員さんが応対してくれるのですが、私は多少おたおたしながら社長さんの経営理念などを訪ねて見ました。

「内の社長は、既製デザインのバルーンを販売するのでは無く、心の通い合えるものを販売して行きたいと思って居るのです。ですからネット販売にはなるべく依存したく無いと言ってます。」と答えて下さりました。

店内では、社長の西田さんが、バルーンに入れるガスと空気の量の調整によってバルーンを空中にふわふわと浮遊させることができるのですよ」と実演しておられ「バルンアートの専門店は千葉県にここ一店舗だけなのです。でも数を売れば良いと言う事でなく、バルーンを人と人との交流のアイテムとして居るので、顔の見える販売をして行きたいですね。しかしお店を維持して行くことは大変です。」などとお話して下さいました。

ピースポイントさんはイベントや結婚式などのバルーン装飾なども手がけており、その仕事から人に対する思いやりや生き方、様々な面に対して従業員さんと共に成長して行きたいとの事でした。取材ありがとうございました。みんな大いなる成長が得られますよう、お祈り申し上げます。

2月3日節分会が執り行われまし



ねーねーお坊さん お坊さんこの節分会は、なぜ、厄除けのお札をださないの？

そうじゃな〜 災いをさけて、みんな幸せになるには様々な方法があるのじゃが、その幸せに成る方法を二つあげてみるね。

その一つが、神様や仏様に浄財をお供えして、お守りや、お札を頂き、神仏の加護を受ける方法。もう一つが、己の「徳」を積んで善因の功德を巡らす方法なんじやよ。

お坊さんのお寺では、それぞれに、己の優しさを、人々に施し合いながら、善因の功德を巡らし、様々な災いをさけ、真の幸が得られるよう祈っているのじやよ。

私達は己にとって都合の良いように物事を判断し、不都合な事には怒りを覚えたり、不平不満を吐き愚痴をこぼしてしまっています。しかし、物事全て「あるがまま」に、導きとして受け止めて行く思いが抱ければ、己に取って不都合な出来事も、全てが感動と喜びに変わっていくのですね。

己の個人的な見解によって善悪を判断し、その思いにとられ執着し、自ら迷いを作って行く、このような受け止め方は日々の生活の中にも沢山あるものと思われれます。気をつけたいものがございます。まさに比叡山の天候に導かれた寒行の集いでした。 亮観拝

ねーねー お坊さん 今日、何を教えてくれるの？

そうじゃな〜 今日はずーが無く なってしまっただからね 「菩薩」と言う事を簡単にまとめて説明するね。 仏教は、完成された最高の幸の境地を説く教えなんじやが、その境地を会得された人が、「ブツ」釈迦牟尼世尊なんじや。 そのブツの境地、幸せの境地に人々を導いて上げよう、日々勤めている人が菩薩様なんじやよ。 観世音菩薩とか地藏菩薩と言う特別な存在だけじゃないのじやよ。 君も自己中心的な思いを捨てて、他の幸を願う思いが抱ければ立派な菩薩様ということなんじやよ。

この節分会を行うには、打ち合わせから設営の準備、おそばや、焼き鳥などのご接待、沢山の人がご奉仕のお陰で執り行うことができるのじやよ。

この、他の幸を願うご奉仕が「徳」という形に成り、善因の功德を巡らす事に成るのじやよ、そして他の幸を願う思いが巡り巡って、参拝者も幸運に巡り会える、という事なんじやよ。

しかし、結果を求めたり、恩に着せるような思いがあったのでは、「徳」とは言わないのじやよ。 たとえば、「俺がしてやったんだ俺に感謝しなさいとか、私がこんなにしてやったのだから、それなりの報酬があつてしかるべきだ」などと、このような見返りを求める思いがあつては幸運には巡り会えず、むしろ災いの元に成るので気をつけなければならぬよ。

「陰徳あれば必ず陽報あり」 「人知れず徳を積む者には必ず誰の目にも明らかなよい報いがあり、隠れて善行をしている者には必ずはつきりとした名誉があるものだ」と思想家、淮南子(えなんじ)が言っているが、「陽報」すら求めず、無心に徳を積む、この価値を見いだすことなんじやよ。

「遊戯三昧」 ゆげさんまい これは禅の言葉なのじやが、真の徳と言う事は「何かのため」という意味づけを付けずに、それを楽しみとして行うことなんじや、成果など、どうでもよい「ただやる」。これが内の節分会なのじやよ。

